

V. 鉄道事故等と再発防止措置

1 事故・輸送障害の発生件数

【事故等報告（鉄道事業法・鉄道事故等報告規則に基づく報告）】

平成19(2007)年度の事故・輸送障害の発生件数は、6件と前年度より大幅に減少しています。車両故障による輸送障害と線路内立入による人身障害事故等の減少によるものです。

(件数)

		平成19(2007)年度	平成18(2006)年度	平成17(2005)年度
事故	列車衝突事故	0	0	0
	列車脱線事故	0	0	0
	列車火災事故	0	0	0
	踏切障害事故	2 (2)	2 (1)	0
	道路障害事故	0	0	0
	鉄道人身障害事故	2 (2)	10 (9)	3 (3)
	鉄道物損事故	0	0	0
輸送障害		2	8 [1]	17 [2]
合計		6	20	20

※ () 数は、線路内立入り等による人身障害事故件数 [内数]

[] 数は、自然災害件数 [内数]

2 輸送障害の内訳

(件数)

		平成19(2007)年度	平成18(2006)年度	平成17(2005)年度
鉄道係員	信号			
	その他		1	1
車両・鉄道施設	車両故障		3	5
	転てつ装置故障			
	閉そく装置			
	信号装置故障			
	踏切保安設備			
	その他	2	2	6
鉄道外	妨害			
	線路内支障		1	
	線路内立入り			1
	踏切道			
	火災			
その他		1 [1]	4 [2]	
		2	8	17

※ [] 数は、自然災害件数 [内数]

3 主な事故・輸送障害の内容 [平成19(2007)年度実績]

○鉄道施設障害（電気関係）

■発生日時

平成20(2008)年2月9日 11時55分頃

■発生場所

西大阪線伝法～千鳥橋間

■事故概要

千鳥橋駅西方において、電線架設のための工事用仮設ロープが、降雪によるロープ上への積雪加重により垂れ下がり、通過列車のパンタグラフを破損

■再発防止対策

- ・仮設ロープの事前架設は原則行わない
- ・事前架設がやむを得ず必要な場合は、電車線が交差する上空への架設禁止や張力、支持間隔を明確に定め、管理を徹底

○鉄道施設障害（軌道関係）

■発生日時

平成20(2008)年3月27日 11時30分頃

■発生場所

岩屋駅西方 トンネル内

■事故概要

トンネル内の漏水が原因として考えられるレール底部の腐食により、同部に初期亀裂が発生、列車荷重により折損に至り、ATS・信号障害が起こった

■再発防止対策

- ・地下区間全線においてレール状況の総点検、軌道内清掃を実施
- ・当該折損箇所と類似状況にある部分のレール交換を実施
- ・線路巡視の精度向上のため、高輝度のLEDフラッシュライトを配備、使用

4 インシデント [平成19(2007)年度実績]

【インシデント報告（鉄道事業法・鉄道事故等報告規則に基づく報告）】

インシデントとは、「鉄道運転事故が発生するおそれがあると認められる事態」のことであり、下記の通り国土交通省への報告内容が定められていますが、平成19(2007)年度の発生はありませんでした。

(件数)

閉そく 違反	信号 違反	信号 冒進	本線 逸走	工事 違反	車両 脱線	施設 障害	車両 障害	危険物 漏えい	その他	計
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0